

## <研究ノート>

# フエーダ教区の家庭内試問記録簿における 社会階層名：1788年～1896年

佐藤 睦 朗

## 1. はじめに

19世紀スウェーデン農村史研究を進めるうえで不可欠な史料の一つとして、教会簿冊 (kyrko-böcker) が挙げられる。教会簿冊は、牧師によって教区単位で作成された住民の個人情報に関する記録簿であり、「家庭内試問記録簿」 (husförhörslängder), 「結婚記録帳」 (lysning- och vigsel-böcker), 「移動記録簿」 (flyttningsslängder), 「出生・洗礼記録帳」 (födelse- och döpböcker), 「死亡・埋葬記録帳」 (död- och begravningsböcker) の5種類の史料に大別される。このなかで家庭内試問記録簿は、他の4つの史料で扱われる事項を含む全ての個人情報に記載された史料であることから、土地制度史や家族史の研究において最も頻繁に利用されている。

家庭内試問記録簿は、本来は「家庭内試問」 (husförhör) とよばれる聖書に関する試験の結果を記録するために作成された台帳であったが、1749年に設立された統計局 (Tabellverket) によって人口統計の教区レベルでの資料として利用されたことにより、18世紀半ば以降は、教区民の出生、結婚、死亡、居住地の移動などの個人情報が主に記載されるようになった<sup>(1)</sup>。さらに、1812年に人頭税 (mantalspengar) を徴収するための補助的な資料としての利用も開始されたことにより、19世紀を通じて宗教的な意味合いは大きく後退し、世俗的な住民台帳へと変容したのである<sup>(2)</sup>。

この史料では、氏名の前に社会階層名ないしは世帯内での位置 (妻、息子、娘、奉公人など) が記載されていることから、個人の社会経済的な地位を調査するうえで重要な情報源となっている。ただし、階層名は地方によって異なるため、史料上の呼称とスウェーデン農村史研究において一般的に用いられている主要な社会階層との対応について予め整理しておく必要がある。

そこで本稿では、筆者が研究対象としているエステルイエートランド (Östergötland) 地方中部のフエーダ (Skeda) 教区を取り上げて、家庭内試問記録簿に記載された階層名の特徴について考察したい<sup>(3)</sup>。これは、同教区を対象とした農村史研究を進めるための基礎的な調査である。

## 2. 史料

本稿では、主な史料として、北スウェーデンのユーメオ (Umeå) 大学にある「人口学データ

ベース」(スウェーデン語表記: Demografiska Databasen vid Umeå universitet: 英語表記: The Demographic Data Base at Umeå University: 以下, DDB と略記) によって電子化された教会簿冊を利用する。このデータベースについて, 予め簡単に説明しておきたい。

DDB では, 6 教区と 3 地域(図 1 を参照) の教会簿冊の情報を入力し, 各個人の情報を連関させたうえで公開する作業を進めている。すでにスンスヴァル(Sundsvall) 地域やトロース(Trosa) 教区などのデータベースは完成し, 加工された情報を抽出することが可能となっている<sup>(4)</sup>。だが, フェーダ教区を含むリンシェーピング(Linköping) 地域の 36 教区については, 現時点では未完成の段階にあることから, データの加工や抽出を行うことはできない。ただし, DDB が入力したデータに基づいて, リンシェーピング大学にある地方史研究センター(Centrum för lokalhistoria) によって作成された検索用のデータベースは完成していることから, この検索システムを利用して階層名の調査を行った。

フェーダ教区の場合, 家庭内試問記録簿の原史料は, 欠号の 1768~87 年を除き, 1747~67 年

図 1 DDB による教会簿冊の電子化の対象となっている教区と地域



出典: Ulla Nilsson, *Parish Records*, Umeå 1993, s. 106.

に作成された第1巻から1892～96年に作成された第28巻まで公開されている。このため、データベースにおいても、1747～67年と1788～1896年が検索の対象期間となっている。ただし、第1巻では社会階層名に関する記述が不完全であることから、本稿では1788年から1896年までを考察の対象とする。

なお、データベースでは、原史料のなかには簡単に記載されている土地所有関係の情報が全て省略されていることから、これを補うために、地方官吏によって作成された「人頭税調査簿」(mantalslängder)と「徴税簿」(taxeringslängder)も利用した<sup>(5)</sup>。行論中の土地制度に関する情報は、こうした徴税台帳の調査に依拠したものである。

### 3. 19世紀のスウェーデン農村における主要な社会階層

フェーダ教区を対象とした分析を行う前提として、19世紀のスウェーデン農村社会における主要な階層について整理することにしたい。同教区では、19世紀半ばの段階で農民所有地が約60%を占めていたことから、農民村落における社会階層に関する整理が中心となる。ただし、中小の地主大農場(gods)は存在していたことから、大所領内の階層にも簡単にふれることにする<sup>(6)</sup>。なお、貴族、僧侶、爵位を持たない「上層中間層」(ofrälse ståndspersoner)などのエリート層については、整理の対象外とした<sup>(7)</sup>。

#### ①農民

19世紀末までのスウェーデンでは、原則として、課税単位であるマンタル(mantal)の指定を受けた農場を経営していることが農民の基本的な標識であった。この農民層は、経営する農場の税制上の区分に基づいて、担税地農民(skattebonde)、王領地農民(kronobonde)、免税地農民(frälsebonde)の三種類に大別される<sup>(8)</sup>。このなかで王領地農民は、1789年に担税地農民の所有権とほぼ同様の保有権が保証されたことから、自営農民である担税地農民との土地制度上の差異はほぼ解消されていた<sup>(9)</sup>。彼らは、マンタルに基づいて国家に対する租税負担を要求される一方で、1866年に二院制議会が導入されるまで存続した四身分制(貴族、僧侶、市民、農民)議会の農民身分に属する権利を享受するとともに、1860年代初頭まで地方政治の拠点であった教区会議(sockenstämma)での投票権を与えられた<sup>(10)</sup>。

これに対して、貴族や上層中間層などの地主から農場を借りる免税地農民は、原則として農民身分から排除されており、さらに地主大農場地域では教区会議への参加を地主によって制限されることもあった<sup>(11)</sup>。ただし、免税地農民は一様ではなく、上層のなかには、農民による免税地の購入が1789年と1810年に順次自由化されるなかで、自営農民に転化する例もみられた。このような免税地所有農民は、1834年には四身分制(貴族、僧侶、市民、農民)議会の農民身分への加入が認められ、担税地農民や王領地農民と同等の政治的地位を与えられたのである<sup>(12)</sup>。このため、税制上の農民区分の意義は、一部の地主大農場地域を除いて、19世紀を通じて失われる傾向にあった。

こうしたなかで、農民層の区分として新たに重視されたのが、農場所有権の有無である。これにより、免税地所有農民を含む自営農民は「農場所有者」(hemmansägare)という概念で一括される一方で、地主や農民から農場を借りて経営を行う借地農については、「借地人」(arrendator)、「保有農」(åbo)、「耕作者」(brukare)、「私領地農民」(landbonde)などと記載されたのである<sup>(13)</sup>。これらの階層名については、フェーダ教区の教会簿冊を対象とした分析のなかでも検討されることになる。

なお、農民は社会経済的には多様であり、後述の農村下層民との境界が曖昧な零細農から、中小の地主に匹敵する大農までを含む階層であった。特に「上流農民」(herrebönder)とよばれる大農層には、上層中間層の出身者も含まれていたことから、両者の境界は必ずしも明確ではなかった<sup>(14)</sup>。こうした農民層内部の格差については別稿にて論じることにして、さしあたり本稿では一括して農民として階層名の考察を進めることにする。

## ②トルパレ

トルパレ (torpare) とは、マンタールの指定を受けていないトルブ (torp) とよばれる小作地を経営する小作人をさす。彼らは農民層とは異なり、マンタールに基づく権利・義務関係から原則として排除されていた。このため、農民より下位に位置する階層を全て含む概念である「土地無し」(obesuttna) 層に分類される<sup>(15)</sup>。ただし、トルパレは多種多様であり、農業労働者に等しい層から、小農と匹敵する規模の耕地を保有する層までを含んでいたことから、トルパレを他の農村下層民とは区別して分析がなされる場合もある<sup>(16)</sup>。

トルブの形態は時代によって多様であるが、18～19 世紀に限定すれば、地主大農場内に設置された「大所領トルブ」(herrgårdstorp, säteritorp) と、農民が所有する農場に付随する「農民地トルブ」(bondetorp) に大別される。また、これに対応するかたちで、トルパレについても、「大所領トルパレ」(herrgårdstorpä, säteritorpäre) と「農民地トルパレ」(bondetorpäre) の 2 種類に分けることが通例となっている<sup>(17)</sup>。前者についてはすでに別稿で論じていることから、ここでは農民地トルパレについて整理することにしたい<sup>(18)</sup>。

農民地トルブでは、「日割労働」(dagsverke) とよばれる労働提供は農繁期の 5～10 日程度に限定され、通常は現金と現物を中心とした小作料が賦課された<sup>(19)</sup>。農民村落におけるトルブの設置は、18 世紀前半までは法的に規制されていたが、1743 年と 57 年にそれぞれ担税地と王領地において自由化された<sup>(20)</sup>。こうしたトルブの耕地面積は、18 世紀末のエステルイエートランド地方西部では平均で 1.2 ヘクタール程度であったことから、農業経営だけでは生活することができずに、畜産や手工業、漁業などの副業にも従事する必要があったと考えられる<sup>(21)</sup>。

トルパレの小作権は、5 年以下の不安定な契約の場合がある一方で、長期にわたる安定した小作権を認められることもあった。特に、「抵当トルブ」(förpantningstorp) では、農民に対して初年度に数十年分の小作料を支払う形態であったことから、通常は 49 年の小作期間が保証された<sup>(22)</sup>。同様に、農場の相続や売買の際に土地購入代の一部として隠居人に対して提供された

「隠居トルプ」(undantagstorp)や、農場相続権放棄者に与えられた「血縁トルプ」(bördstorp)の場合も、生涯にわたる小作権が認められた<sup>(23)</sup>。これらのトルパレのなかには、トルプを農民から購入して、小農に近いトルプ所有者となる者もいた<sup>(24)</sup>。

こうした農民地トルパレとの関連で、「外地」(utjord)の耕作者についてもふれておく必要がある。外地の存在形態は時代や地域によって異なるが、本来の農場所有者によって利用されずに放置された小規模の農地が、他人によって耕作されるなかで分離農地となった点ではほぼ共通している<sup>(25)</sup>。フェーダ教区では、外地の多くは村落間ないしは教区間に存在しており、19世紀初めの段階では実質的には共有地となっていたが、19世紀半ば以降は村落内の農場の一部として吸収されるか、あるいは単独の農地として私有地化された。このなかには、開墾の進行により、農民農場と同規模の課税評価額となっている場合もある<sup>(26)</sup>。ただし、外地に対してはマンタールの指定がなされていないことから、先行研究では、耕地面積の大きさにかかわらず、その耕作者はトルパレ層に分類されている<sup>(27)</sup>。このため本稿でも、外地耕作者をトルパレ層に含めて階層名の分析を行うことにする。

### ③兵士

19世紀のスウェーデンでは、1680年代に本格的に導入され、1892年の決定を通じて1901年に廃止されるまで存続した「割当兵制」(indelningsverket)とよばれる軍税負担に基づいて、兵士家族の扶養が農場所有者に要求された。この制度は、軍区(roste)単位で歩兵や水兵の家族が扶養される場合と、「騎兵扶養契約者」(rusthållare)に指定された農民ないしは地主によって騎兵家族の扶養と軍備一式の提供がなされる場合の二通りに大別される<sup>(28)</sup>。いずれの場合も、農民から兵士家族の生活費の一部としてトルプが提供されたことから、先行研究ではトルパレと同一階層に分類されている場合もある<sup>(29)</sup>。だが、本稿では階層名の分析を課題としているため、トルパレとは区別して考察を進める。

### ④小屋住み・間借人

小屋住み(backstugusittare)とは、農場所有者から「丘の小屋」(backstuga)とよばれる小屋を借りる階層をさす<sup>(30)</sup>。この小屋には小規模の畑が付随していたが、その農業経営は生計の補助的な意味しかもっていなかった。丘の小屋と小規模のトルプとの差異は必ずしも明確ではなかったが、地域によっては0.25ヘクタールの耕地面積が区別する基準として設定されていた<sup>(31)</sup>。だが、実際には小屋住みと下層のトルパレとの境界は曖昧であることから、史料上で混同される例もみられる<sup>(32)</sup>。

農民村落において丘の小屋を設置することは、18世紀半ばまでは勅令によって規制されていたが、1762年と70年に順次自由化された<sup>(33)</sup>。当初は老人や貧民用の小屋であったが、スウェーデン西部を中心に、労働可能な若年の小屋住みが18世紀末以降に増加し、農民層の重要な労働力源となった<sup>(34)</sup>。だがスウェーデン東部では、19世紀においても小屋住みは高齢者が中心であり、労働力源としての意義は小さかったとみるのが通説となっている<sup>(35)</sup>。

小屋住みと同一階層とされているのが、間借人 (inhyreshjon) である。彼らは、地主や農民から屋敷内の一室を借りる同居人であり、完全に農業経営から分離している点では小屋住みと異なるが、実際には両者は厳密には区別されておらず、政府の統計においても一括されている<sup>(36)</sup>。スウェーデン東部では、小屋住みと同様に間借人も老人や貧民が中心で、若年の労働者は少数であったと考えられている<sup>(37)</sup>。

#### ⑤手工業者

スウェーデン農村社会における手工業者は、教区、地主大農場、あるいは村落共同体によって雇用されていた。この農村手工業者 (lantantverkare) のなかで、19 世紀半ばまで主要な形態であったのが、教区手工業者 (sockenhantverkare) である<sup>(38)</sup>。その主たる職種は、靴、仕立て、鍛冶、指物、左官であった。ただし、これらの農村工業には、農民、トルパレ、兵士なども副業として従事していたことから、教会簿冊や人頭税帳簿のなかで手工業者と確認しうる人数は、教区によって実際に許可された人数を下回っていた<sup>(39)</sup>。こうした教区単位で手工業者を雇用する制度は、1846 年の工場・手工業者令によって法的には廃止されたが、実際には 1860 年代前半までは存続していた<sup>(40)</sup>。このため、教区手工業者の保護が完全に撤廃され、農村における営業の自由が確立されたのは、1860 年代後半であったと考えられる。

#### ⑥スタータレ・既婚の奉公人

スタータレ (statare) とは、給与の一部をスタット (stat) とよばれる現物支給によって支払われる農業労働者をさす。このスタータレは、農村社会の階層に関する政府の公式な統計では、1825 年に初めて「スタットトルパレ」 (stattorpare) という名称で記載されたが、東中部スウェーデンや南部スコーネ (Skåne) 地方の地主大農場では、すでに 18 世紀半ばにはスタータレの原型となる既婚の奉公人が雇用されていたとみるのが通説となっている<sup>(41)</sup>。この制度は 1945 年まで存続したことから、地主大農場での過酷な労働条件の下で働く農業労働者として、歴史学研究において頻繁に取り上げられてきた<sup>(42)</sup>。ただし、スタータレの原型となった既婚の奉公人は、19 世紀においては、地主大農場だけでなく農民屋敷でも雇用されていた。このため本稿では、農民世帯で雇用された既婚の奉公人もスタータレに含めて分析を進めることにする。

#### ⑦未婚の奉公人

「ヨーロッパ型結婚類型」の地帯に属していたスウェーデンでは、西欧や中欧と同様に「ライフ・サイクル奉公人」が広汎に存在していた<sup>(43)</sup>。これは、親元を離れた時期から結婚するまでの期間に属する階層であり、年齢層としては 15 歳から 30 歳までが中心であった<sup>(44)</sup>。19 世紀には、農場を相続する子供が奉公人となることを回避する一方で、奉公後に両親よりも下位に位置する事例が増加する傾向がみられることから、奉公人が「下降の社会移動」 (nedåtgående sociala mobilitet) の一つの源泉となったと考えられている<sup>(45)</sup>。ただし、史料上では奉公人と実子との差異は必ずしも明確ではなく、スウェーデン政府の統計においても、親と同居する 15 歳以上の子供と未婚の奉公人は同一階層に分類されている<sup>(46)</sup>。また家庭内試問記録簿においても、両者が

混同される例がみられる<sup>(47)</sup>。以下の分析でも、奉公人と記載された実子については、全て奉公人として処理されている。

#### 4. フェーダ教区の家庭内試問記録簿における階層名

表1は、家庭内試問記録簿において使用頻度が高いと考えられる名称を入力して検索した結果を示したものである<sup>(48)</sup>。史料上では、個人の階層名は名詞の定形で記載されていることが一般的であるが、表のなかでは不定形で明示した。

表のなかで3つの時期に分けられているのは、リンシェーピング大学地方史センターにおいて編集された際に、(1)AI:1 (1747年-67年)～AI:10 (1816年-23年)、(2)AI:11 (1823年-30年)～AI:20 (1857年-60年)、(3)AI:21 (1861年-66年)～AI:28 (1892年-96年)に区分されたことによるものである。ただし、すでにふれたとおり第1巻(1747年-67年)では社会階層名がほとんど記載されていないことから、表1では第1期を1787年～1823年に変更している。

なお、女性の場合は結婚後に「主婦」(husfru)とのみ記載されることが通例であることから、表1では原則として男性を検索対象とした。ただし、結婚前の奉公人と老年期の小屋住み・間借人については、女性も含めて検索を行った。

表1 フェーダ教区の家庭内試問記録簿における階層名

##### ①農民

1788年～1822年			1823年～1860年			1861年～1896年		
階層名	訳語	件数	階層名	訳語	件数	階層名	訳語	件数
bonde	農民	143	hemmansäger	農場所有・耕作者	1	eger, bruk.(eg, br.)	(農場)所有・耕作者	155
rusthållare	騎士扶養契約者	23	hemmansägare	農場所有者	4	eger (ägare)	(農場)所有者	269
nåmdeman	(教区会議)委員長	9	eger, bruk.(eg, br.)	(農場)所有・耕作者	135	bonde	農民	1
skattebman	担税人	8	eger (ägare)	(農場)所有者	181			
eger (ägare)	(農場)所有者	2	rusthållare	騎士扶養契約者	5			
			nåmdeman	(教区会議)委員長	2			
			bonde	農民	1			
arrendator	(農場)借地人	6	arrendator	(農場)借地人	46	arrendator	(農場)借地人	83
br.(brukare)	(農場)耕作者	124	br.(brukare)	(農場)耕作者	285	br.(brukare)	(農場)耕作者	294

##### ②トルパレ

1788年～1822年			1823年～1860年			1861年～1896年		
階層名	訳語	件数	階層名	訳語	件数	階層名	訳語	件数
torpare	トルパレ	187	torpare	トルパレ	738	torpare	トルパレ	603
			förpantningsågar	抵当権所有者	15	förpantningsågar	抵当権所有者	22
			eger, bruk.(eg, br.)	(トルブ)所有・耕作者	2	eger, bruk.(eg, br.)	(トルブ)所有・耕作者	1
			eger (ågar)	(トルブ)所有者	7	eger (ågar)	(トルブ)所有者	33
			br.(brukare)	(トルブ)耕作者	12	br.(brukare)	(トルブ)耕作者	18
			arrendator	(トルブ)借地人	14	arrendator	(トルブ)借地人	23
utjordsbrukare	外地耕作者	3	utjordsbrukare	外地耕作者	1	eger, bruk.(eg, br.)	(外地)所有・耕作者	38
br.(brukare)	(外地)耕作者	3	eger, bruk.(eg, br.)	(外地)所有・耕作者	5	eger (ågar)	(外地)所有者	44
			eger (ågar)	(外地)所有者	8	br.(brukare)	(外地)耕作者	49
			br.(brukare)	(外地)耕作者	39	arrendator	(外地)借地人	25
			arrendator	(外地)借地人	19			

## ③兵士

1788 年～1822 年			1823 年～1860 年			1861 年～1896 年		
階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数
soldat	兵士	25	lifgr. (lifgrenadier)	兵士	153	lifgr. (lifgrenadier)	兵士	138
lifgr. (lifgrenadier)	兵士	36						
ryttare	騎兵	16						

## ④小屋住み・間借人

1788 年～1822 年			1823 年～1860 年			1861 年～1896 年		
階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数
backst.	小屋住み	18	backst.	小屋住み	24	backst.	小屋住み	8
inhyses.	間借人	146	inhyses.	間借人	2	inhyses.	間借人	595
till hus	家に属する者	105	till hus	家に属する者	348	till hus	家に属する者	221
			eger (ägare)	(丘の小屋) 所有者	1	eger, bruk. (eg, br.)	(丘の小屋) 所有・耕作者	2
			br. (brukare)	(丘の小屋) 耕作者	2	eger (ägare)	(丘の小屋) 所有者	24
						br. (brukare)	(丘の小屋) 耕作者	2

## ⑤手工業者

1788 年～1822 年			1823 年～1860 年			1861 年～1896 年		
階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数
skomakare	靴職人	19	skomakare	靴職人	10	skomakare	靴職人	77
sockenskomakare	教区靴職人	2	sockenskomakare	教区靴職人	9			
skräddare	仕立て職人	18	skräddare	仕立て職人	14	skräddare	仕立て職人	41
sockenskräddare	教区仕立て職人	10	sockenskräddare	教区仕立て職人	13	sockenskräddare	教区仕立て職人	2
murmästare	左官親方	3	murare	左官職人	3			
sockenmurmästare	教区左官親方	1						
smeden	鍛冶職人	10	smeden	鍛冶職人	17	smeden	鍛冶職人	36
snickare	指物職人	11	snickare	指物職人	7	snickare	指物職人	24

## ⑥スタータレ・既婚の奉公人

1788 年～1822 年			1823 年～1860 年			1861 年～1896 年		
階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数
gift dräng	既婚の下男	119	gift dräng	既婚の下男	239	gift dräng	既婚の下男	14
gifta stutare	既婚のスター	1	statdräng	スタット下男	64	statdräng	スタット下男	224
arbetare	労働者	22	arbetskarl	労働者	11	arbetare	労働者	96

## ⑦未婚の奉公人

1788 年～1822 年			1823 年～1860 年			1861 年～1896 年		
階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数	階 層 名	訳 語	件数
dräng	下男	1517	dräng	下男	2357	dräng	下男	2728
tjänste gosse	奉公中の少年	43	tjänste gosse	奉公中の少年	24	tjänste gosse	奉公中の少年	6
arbets-dr.	労働下男	3						
piga	下女	1828	piga	下女	2685	piga	下女	2706
tjänste flicka	奉公中の少女	66	tjänste flicka	奉公中の少女	29	tjänste flicka	奉公中の少女	1

資料：DDB

### ①農民

スウェーデン農村史研究では、「農民」(bonde)という階層名が自明のものとして使用されている。だがフェーダ教区の家庭内試問記録簿では、1822年までは一般的な名称として用いられていたが、1823年以降は例外的な場合を除いてほとんど記載されていない。同様に、1820年代まで担税地農民に対して用いられていた「騎士扶養契約者」(rusthållare)や「担税人」(skatteman)などの特殊な階層名についても、1830年代以降は使用されていない。これに代わり、自営農民の一般的な表記として定着したのが、「農場所有者」(hemmansägare)を意味する「所有・耕作者」(eger, bruk.; ägare och brukare)と「所有者」(eger; ägare)である。ただし、「ヘムマン」(hemman)の部分が省略されており、後述のトルプや外地の所有者と区別されていないため、徴税記録簿を利用してマンタールの指定を受けた農場に居住地していることを確認しなければ、農民と特定することはできない。

こうした確認作業は、土地所有権を有していない借地農の場合にも必要となる。借地農については、18世紀末以来、ほぼ一貫して「耕作者」(bruk.; brukare)ないし「借地人」(arr.; arrendator)と記載されているが、ここでも「ヘムマン」の部分が省略されているため、階層名のみではトルプや外地の耕作者・借地人と区別することはできない。このため、同様に居住地の情報を確認しなければ、「農場耕作者」(hemmansbrukare)ないしは「農場借地人」(hemmansarrendator)であることを確定することができない状況となっている。

このようにフェーダ教区の家庭内試問記録簿では、農民は必ずしも明確に区分された階層ではなかったのである。

### ②トルパレ

トルパレについては、一般的な呼称である「トルパレ」(torpare)が主に使用されており、また、1840年代からは抵当トルパレを意味する「抵当権所有者」(förpantningsägare)と記載されていることから、比較的容易に特定しうる階層である。ただし、トルプ居住者に対しても、19世紀半ば以降に「所有・耕作者」、「所有者」、「耕作者」、あるいは「借地人」と記載されている場合がみられる。同様に、外地の耕作者と所有者の場合も、明確に「外地耕作者」(utjordsbrukare)と記載されているのは4例だけであり、それ以外は省略されている。このため、トルパレ層についても、農民と同様に居住地の確認を必要とする場合がある。

### ③兵士

一般的な呼称である「兵士」(soldat)と「騎兵」(ryttare)は、1810年代初めまで使用されたが、その後は記載されていない。これらに代わり、1820年代以降はlifgrenadierという名称に統一されている。これは、現代スウェーデン語の「近衛兵」(livguard; grenadjär)をさす言葉であると解釈されるが、史料上では兵士全般をさしていると考えられる。

### ④小屋住み・間借人

一般的な呼称である「小屋住み」(backst.; backstugusittare)と「間借人」(inhyses.; inhysesshjon)

に加えて、両者を区別しない「家に属する者」(till hus)という階層名が用いられている<sup>(49)</sup>。このほかに、丘の小屋の居住者に対しては、1860年代以降に「所有・耕作者」,「所有者」,「耕作者」と記載されているため、農民やトルパレとの区別が必ずしも明確ではない場合もみられる。

#### ⑤手工業者

家庭内試問記録簿からは、フェーダ教区では、靴、仕立て、左官、鍛冶、指物の5職種の手工業者が存在していたことが確認される。ただし、教区手工業者と明記されているのは、靴、仕立て、左官の3職種のみである。

#### ⑥スタータレ・既婚の奉公人

スタータレに直接関連した階層名は、1822年まではわずか1件だけであったが、23年以降は「スタット下男」(statdräng)の記載が増加した。また、「労働者」(arbetare; arbetskarl)の呼称も19世紀後半に頻繁に使用されている。これに対して、「既婚の下男」(gift dräng)は、1850年代までは一般的な階層名であったが、1861年以降は記載件数が激減した。

#### ⑦未婚の奉公人

奉公人については、一般的な名称である「下男」(dräng)と「下女」(piga)が用いられている。ただし、15歳未満の場合は、「奉公中の少年」(tjänste gosse)および「奉公中の少女」(tjänste flicka)と記載されている。

### 5. 小括

以上の分析から、フェーダ教区の家庭内試問記録簿では、農民、兵士、小屋住み・間借人について、農村史研究のなかで一般的に用いられる階層名とは若干異なる呼称が用いられていたことが明らかになった。本稿では、家庭内試問記録簿のみを分析対象としたが、その他の教会簿冊でもほぼ同様の傾向である。こうした史料上の特徴をふまえたうえで、フェーダ教区における土地制度や社会層分化に関する分析を進めることが、次の課題となる。

#### 注

- (1) Gösta Lext, *Studier i svensk kyrkobokföring 1600-1946*, Göteborg 1984, s.174-179; Ulla Nilsdotter Jeub, *Parish Records. 19th Century Ecclesiastical Registers*, Umeå 1993, s.4-5; Martin Dribe, *Leaving Home in a Peasant Society*, Lund 2000, s.27.
- (2) Gösta Lext, *Mantalskrivningen i Sverige före 1860*, Göteborg 1979, s.137-140; M.Dribe, *Leaving Home in a Peasant Society...*, s.28. 人頭税については、Olle Lundsjo, *Fattigdomen på den svenska landsbygden under 1800-talet*, Stockholm 1975, s.44-45.
- (3) フェーダ教区については、以下を参照されたい。拙稿「東中部スウェーデンにおける農業景観と開墾—フェーダ教区を対象とした一考察—」『(神奈川大学) 商経論叢』第37巻第2号(2001年), 169-189頁; 同「フェーダ教区における原初村落—1789~1843年—」『経済貿易研究』第28号(2002年), 95-107頁。
- (4) 完成したスンスヴァル地域のデータベースを利用して、教会簿冊における階層名の使用頻度に関する実証分析を行った研究として, Sören Edvinsson & Johnny Karlsson, "Recoding occupations in the

- Demographic Data Base into HISCO”, i *Historical International Standard Coding of Occupations* (HISMA Occcational Papers and Documents Series no.3/1998), Berlin 1998, s.137-167.
- (5) Mantals- och taxeringslängder 1820-1895, Landsarkivet i Vadstena (以下, VaLA と略記).
  - (6) 地主大農場については, 拙稿「19世紀東中部スウェーデンの地主大農場経営における『日割労働』」『社会経済史学』第62巻第6号(1997年), 33-55頁; 拙稿「19世紀東中部スウェーデンにおける地主大農場の経営形態と『日割労働』の存続」『一橋論叢』第118巻第6号(1997年), 161-179頁.
  - (7) 「上層中間層」は, 身分制議会における四身分(貴族, 僧侶, 市民, 農民)には属していなかったが, 農村社会において, 爵位をもたない官吏, 将校, 教育関係者, 地主, 大農場経営者などとして, 貴族や僧侶と同様に大きな影響力を有していた。こうした上層中間層については, さしあたり以下の文献を参照。Sten Carlsson, *Ståndssamhälle och ståndspersoner 1700-1865*, Lund 1973, s.17-21; 石原俊時「産業革命前夜のスウェーデンにおける中産層と都市の変容」関口尚志・梅津順一・道重一郎(編)『中産層文化と近代』日本経済評論社, 1999年, 159-184頁.
  - (8) 担税地農民には, 担税地農場のほかに, 担税地内免税農場(skattefrälsehemman)と免税地内担税農場(frälsekattehemman)を経営する農民も含まれる。前者は, 国税を地代として取得する権利を貴族が17世紀に獲得した農場であるが, 世襲権や耕作権は従来通り担税地農民が維持した。後者は, 貴族や上層中間層などの地主層が18世紀に世襲権や耕作権を農民に対して売却した免税地農場のことである。19世紀初頭の段階で, 統計では免税地に分類されている農場の約10%が担税地内免税農場ないしは免税地内担税農場であったと推定されている。Carl-Johan Gadd, *Den agrara revolutionen 1700-1870*, Stockholm 2000, s.78-79.
  - (9) Enoch Ingers, *Bonden i svensk historia del II*, Stockholm 1948, s.391; Jörgen Kyle, *Striden om hemmanen*, Göteborg 1987, s.151.
  - (10) 19世紀半ばまでの農民層の政治参加については, さしあたって, Sten Carlsson, *Bonden i svensk historia del III*, Stockholm 1956, s.293-305; Henrik Olsson, *Öst och väst eller nord och syd? Regionala politiska skillnader inom den svenska bondegruppen under 1800-talet*, Göteborg 1998, s.25-42. また, スウェーデンにおける教区制度については, 以下の邦語文献を参照されたい。石原俊時「スウェーデン近代と信仰復興運動-身分制社会解体の一局-」望田幸男・村岡健次(監修)『教会』ミネルヴァ書房, 2000年, 303-306頁.
  - (11) Ulf Jonsson, *Jordmagnater, landbönder och torpare i sydöstra Södermanland 1800-1880*, Stockholm 1980, s.55. ただし, 教区によっては, 担税地農民とともに免税地農民も会議に参加していたことが指摘されている。Alberto Tiscornia, *Statens, godsens eller böndernas socknar?*, Uppsala 1992, s.56, 129. なお, 村落共同体では, 税制上の農民区分は適用されておらず, 免税地農民も担税地農民および王領地農民と同等の権利を有していた。Mats Hellspong & Orvar Löfgren, *Land och stad*, Lund 1974, s.75.
  - (12) 1825年の段階で, 免税地の約25%を農民が所有していたと推定されている。農民による免税地の購入については, S.Carlsson, *Ståndssamhälle och ståndspersoner 1700-1865...*, s.158-164; Göran Rydberg, *Skatteköpen i Örebro län 1701-1809*, Uppsala 1985, s.22; Christer Winberg, "Another Route to Modern Society", i Mats Lundahl & Thommy Svensson (red), *Agrarian Society in History*, London/New York 1990, s.52, 65. また, 免税地所有農民の農民身分への加入については, S.Carlsson, *Bonden i svensk historia ...*, s.296-297; Peter Aronsson, *Bönder gör politik*, Lund 1992, s.328; Jan Christensen, *Bönder och herrar*, Göteborg 1997, s.133.
  - (13) Britt Liljewall, *Bondevardag och samhällsförändring*, Göteborg 1995, s.311-327, 368-372; Mats Morrell, *Jordbruket i industriamhället 1870-1945*, Stockholm 2001, s.21-24.
  - (14) Sten Carlsson, *Svensk ståndscirkulation 1680-1950*, Uppsala 1950, s.106-108; S.Carlsson, *Bonden i svensk historia del III...*, s.295-302. 1844年には, 税制上最も優遇されていた本拠農場(säteri)の所有者の農民身分への加入が認められたため, 66年に身分制議会が廃止される以前から農民身分の排他性は緩和される傾向にあったと考えられている。P.Aronsson, *Bönder gör politik...*, s.328.

- (15) Christer Winberg, *Folkökning och proletarisering*, Göteborg 1975, s.17; C-J Gadd, *Den agrara revolutionen 1700 - 1870...*, s.23.
- (16) トルパレの社会経済的な地位の多様性については, Sten Carlsson & Jerker Rosén, *Svensk historia II*, Stockholm 1961, s.81; U.Jonsson, *Jordmagnater, landbönder och torpare...*, s.51 - 54; Margareta Larsson, "1800-talets sociala förändringar ur folkmängdstabellens perspektiv", *Historisk tidskrift* Nr.106 (1989), s.523; Christer Persson, *Jorden, bonden och hans familj*, Stockholm 1992, s.98, 109 not 86. 史料上で農民とトルパレとの差異がみられなかった点を指摘した文献として, Sigvard Montelius, *Säfsnäsbrukens arbetskraft och försörjning 1600 - 1875*, Falun 1962, s.114. 逆に, 農業労働者と混同した記述がなされていた事例については, Lena Karlsson "Torparens dagsverken", i Janken Myrdal (red), *Alla de dagar som är livet*, Stockholm 1991, s.57. なお, トルパレを農民と農村下層民との中間に位置する階層と定義したうえで社会流動を分析した研究として, Sture Martinus, "Levnadsbanor för 552 svenskar födda 1810 - 12", i *Ekonomisk-historiska studier tillägnade Artur Attman*, Göteborg 1977, s.113 - 147; Sture Martinus, *Peasant Destinies*, Stockholm 1977, s.110 - 135.
- (17) Gustaf Utterström, *Jordbrukets arbetare vol.1*, Stockholm 1957, s.31 - 32; Kalle Bäck, *Början till slutet. Laga skiftet och torpbebyggelsen i Östergötland 1827 - 65*, Linköping 1992, s.40 - 43.
- (18) 大所領トルパレについては, 前掲拙稿「19世紀東中部スウェーデンの地主大農場経営における『日割労働』」35 - 36, 41 - 43 頁; 拙稿「19世紀東中部スウェーデンの地主大農場における農民・トルパレ世帯」『北欧史研究』第17号(2000年), 27 - 37 頁。
- (19) Valter Elgeskog, *Svensk torpbebyggelse från 1500-talet till laga skiftet*, Stockholm 1945, s.259 - 262; Torsten Hägerstrand, "Torp och backstugor i 1800-talets Asby", *Från Sommabygd till Vätterstrand, 4:e samlingen*, Linköping 1950, s.36.
- (20) E. Ingers, *Bonden i svensk historia del II...*, s.268 - 271; K.Bäck, *Början till slutet...*, s.42 - 43. 農民地トルブは, 18世紀半ばまでは主に共有地に設置された。この共有地トルブ(allmänningstorp)の設置に対して, 製鉄業用の木材の枯渇を懸念した王政は, 1647年と64年の森林法(skogsordning)を通じて規制を行った。具体的には, 1/4 マンタールの農場に匹敵する規模のトルブ以外は取り壊されるとともに, 新たなトルブの設置には郡裁判所の調査と許可が必要とされた。さらに1734年の森林法では規制が強化され, 農場と同様に課税されたトルブ以外は全て取り壊しの対象とされ, かつ新たなトルブの設置は一切認められなくなった。こうした共有地トルブに対する規制は, 1743年から70年にかけて順次緩和されたが, 18世紀半ば以降は農民所有(保有)地でのトルブの設置が主流となったことから, 共有地トルブは少数にとどまった。このため, 19世紀の農民地トルブとは, 通常は農民の農場内に設置されたトルブをさす。Nils Wohlin, *Torp- och backstugu- och inhysesklasserna*, Stockholm 1908, s.10 - 14; V.Elgeskog, *Svensk torpbebyggelse från 1500-talet till laga skiftet...*, s.116 - 160, 192 - 213; K.Bäck, *Början till slutet...*, s.40 - 41.
- (21) トルブの耕地面積については, C-J Gadd, *Den agrara revolutionen 1700 - 1870...*, s.86 - 87.
- (22) V.Elgeskog, *Svensk torpbebyggelse från 1500-talet till laga skiftet...*, s.249 - 253. ただし, エステルイエートランド地方における抵当トルブの契約期間は, 20 - 30 年程度が一般的であった。K.Bäck, *Början till slutet...*, s.51.
- (23) V.Elgeskog, *Svensk torpbebyggelse från 1500-talet till laga skiftet...*, s.211 - 216, 273 - 275; K.Bäck, *Början till slutet...*, s.45.
- (24) フェーダ教区の場合は, 1870年代末以降にトルパレによる購入が進行したことが史料的に確認される。Mantals- och taxeringslängder 1875 - 1895, VaLA.
- (25) 外地については, スウェーデンにおいても本格的な研究には着手されていない。本稿では, さしあたり以下の文献を参照した。Gabriel Thulin, *Historisk utveckling af den svenska skifteslagstiftningen med särskildt afseende å frågan om delningsgrund vid skifte*, Stockholm 1911, s.40 - 46; David Hannerberg, *Svenskt agrarsamhälle under 1200 år*, Stockholm 1971, s.39-40. わが国では, 塚田秀雄氏の先駆的な研究

のなかで、外地に関する適切な指摘がなされている。塚田秀雄「スウェーデンの伝統的農業景観と農用地周柵－土地利用と村落機能の表現として－」『(大阪府立大学紀要) 人文・社会科学』第41号(1993年), 38, 46頁。

- (26) Mantals- och taxeringslängder 1820–1895, VaLA.
- (27) 外地耕作者をトルパレ層に分類している文献として, Gunilla Peterson, *Jordbrukets omvandling i västra Östergötland 1810–1890*, Stockholm 1989, s.13.
- (28) 19世紀における割当兵制については, さしあたって, Agneta Guillemot, *Rask, resolut, trogen. De indelta soldaterna i det svenska agrarsamhället. Västerbotten 1860–1901*, Umeå 1986, s.12–19. この制度の下で, 騎士扶養契約者となった農民は地租 (grundskatt) が免除されたことから, 平時には多くの余剰が手元に残る可能性があった。エステルイェートランド地方では, こうした騎士扶養契約農民が大農層を形成し, 土地整理 (エンクロージャー) を積極的に推進する勢力となったことが知られている。この点については, Kalle Bäck *Bondeopposition och bondeinflytande under frihetstiden*, Stockholm 1984, s.270–271; Birgitta Olai, *Storskiftet i Ekebyborna*, Uppsala 1983, s.223. なお, 騎士扶養契約農民に関する英語文献として以下の論文がある。Jörgen Kyle, "Peasant Elite? A Case Study of Relations between Rural Society and the Swedish Assignment System in the Eighteenth Century", i Magnus Mörner & Thommy Svensson (red), *Classes, Strata and Elites*, Göteborg 1988, s.83–98.
- (29) 兵士とトルパレを同一階層に分類して分析を行っている例として, Ingrid Eriksson & John Rogers, *Rural Labor and Population Change*, Uppsala 1978, s.76; Johan Söderberg, *Agrar fattigdom i sydsverige under 1800-talet*, Stockholm 1978, s.105; G. Peterson, *Jordbrukets omvandling i västra Östergötland 1810–1890...*, s.13.
- (30) スウェーデン南部のスコーネ (Skåne) の小屋住みは, 「通りの家」 (gatehus) に住む人という意味である「家の人」 (husman) とよばれた。Alf Åberg, *När byarna sprängdes*, Stockholm 1953, s.14–15. ただし, ステン・カーソン (Sten Carlsson) は, 1870年に「家の人」が小屋住みをさすようになったことを指摘しつつも, 元来はトルパレをさす階層名であった点を強調している。Sten Carlsson, *Yrken och samhällsgrupper*, Stockholm 1968, s.49–50. 同様に, 「家の人」がトルパレを含む広い概念であったことを指摘している文献として, Lars-Olof Larsson, *Kolonisation och befolkningsutveckling i det svenska agrarsamhället 1500–1640*, Lund 1972, s.178.
- (31) C-J. Gadd, *Den agrara revolutionen 1700–1870...*, s.90.
- (32) 丘の小屋と小規模のトルプとの境界が曖昧であった点については, Axel Wennberg, *Lantbebyggelse i nordöstra Östergötland 1600–1875*, Lund 1947, s.33–35; G.Utterström, *Jordbrukets arbetare vol.1...*, s.32. また, 小屋住みと下層のトルパレが史料上で混同されていた点については, Rolf Adamson, "Kamerala källor rörande sysselsättning och bosättning", *Bebyggelsehistorisk tidskrift* Nr 5 (1983), s.58.
- (33) 丘の小屋を共有地に設置することは, 1762年まで森林法 (注20を参照) によって全面的に禁止されていた。E. Ingers, *Bonden i svensk historia del II...*, s.276–278; K.Bäck, *Början till slutet...*, s.41.
- (34) C-J. Gadd, *Den agrara revolutionen 1700–1870...*, s.224–225.
- (35) Olof Nordström, *Befolkningsutveckling och arbetskraftsproblem i östra Småland 1800–1955*, Lund 1957, s.25; I. Eriksson & J.Rogers, *Rural Labor and Population Change...*, s.64; U.Jonsson, *Jordmagnater, landbönder och torpare...*, s.74. ただし, エステルイェートランド地方西部を対象とした研究では, 19世紀に労働可能な小屋住みが増加していたことの指摘がなされている。Göran Hoppe & John Langton, *Peasantry to capitalism*, Cambridge 1994, s.167.
- (36) Nils Wohlin, *Den jordbruksidkande befolkningen i Sverige 1751–1900*, Stockholm 1909, s.19; G.Utterström, *Jordbrukets arbetare vol.1...*, s.33.
- (37) I. Eriksson & J.Rogers, *Rural Labor and Population Change...*, s.64. 後述の奉公人と間借人の差異は, 前者が若年層であるのに対して, 後者は老齢期に属した点にある。M.Hellspong & O.Löfgren, *Land och stad...*, s.79. なお, 間借人のなかには, 「当番制」 (kringgång) とよばれる, 農民が順番に扶

- 養する制度によって生活していた貧民も含まれる。Christina Danielsson, "Fattigdomen i 1800-talets agrara Sverige", *Ymer* 1988, s.147.
- (38) Carl-Johan Gadd, *Självhushåll eller arbetsdelning ? Svenskt lant- och stadshantverk ca 1400 - 1600*, Göteborg 1991, s.299 - 306.
- (39) C-J Gadd, *Självhushåll eller arbetsdelning ?*, s.135 - 136. 農民, トルパレ, 兵士による副業としての農村手工業への従事については, さしあたって, Anu-Mai Köll, *Traditon och reform i västra Södermanlands jordbruk 1810 - 1890*, Stockholm 1983, s.90; Thomas Magnusson, *Proletär i uniform*, Göteborg 1987, s.113 - 114; Christer Ahlberger, *Vävarfolket. Hemindustrin i Mark 1790 - 1850*, Göteborg 1988, s.59 - 83; Lena Åson Palmqvist, "Sjuhäradsbygdens bondefabrikörer," *Bebyggelsehistorisk tidskrift* Nr 16 (1988), s.65 - 75.
- (40) C-J Gadd, *Självhushåll eller arbetsdelning ?* ..., s.300 - 301.
- (41) G.Utterström, *Jordbrukets arbetare vol.1*..., s.807; Lars Furuland, *Statarna i Literaturen*, Stockholm 1962, s.24 - 27.
- (42) スタータレに関する研究史については, Jens Möller, *Godsen och den agrar revolution*, Lund 1989, s.75 - 77.
- (43) スウェーデンにおける結婚類型については, さしあたって, J. Hajnal, "European Marriage Patterns in Perspective", i D.V.Glass & D.E.C.Eversley (red), *Population in History*, London 1965, s.130,140. Christer Lundh, *The World of Hajnal Revisited. Marriage Patterns in Sweden 1650 - 1900*, (Lund Papers in Economic History No.60), Lund 1997. この関連で, スウェーデン北部を対象とした近年の人口史研究では, 17世紀末から18世紀初めに東欧型の結婚類型(早婚)から西欧型(晩婚)に移行したことが解明されている。Lennart Andersson Palm, "Stormaktstidens dolda systemskifte - från tonårsäktenskap till sena giften", *Scandia* Band 66 (2000), s.55 - 90.
- (44) 奉公人の年齢については, Christer Lundh, "Servant Migration in Sweden in the Early Nineteenth Century", *Journal of Family History* vol.24 (1999), s.65; Christer Lundh, "The Social Mobilty of Servants in Rural Sweden, 1740 - 1894", *Continuity and Change* vol.14 (1999), s.71; M.Dribe, *Leaving Home in a Peasant Society*..., s.111 - 116.
- (45) 奉公人制度と社会的地位の低下との関連については, Börje Harnesk, *Legofolk*, Umeå 1990, s.17; C. Lundh, "The Social Mobilty of Servants in Rural Sweden...", s.70 - 83. ただし, 奉公人経験者が全て農村下層民となったわけではなく, 19世紀においても農民出身の奉公人が農場を獲得していた点には留意する必要がある。この点については, さしあたって, Jan Olof Björkman, *Bonde och tjänstehjon*, Uppsala 1974, s.175 - 190; Lars Edgren, "Tjänstefolk på 1700- och 1800-talen", *Historisk tidskrift* Nr.111 (1991), s.106 - 107.
- (46) N. Wohlin, *Den jordbruksidkande befolkningen i Sverige 1751 - 1900*..., s.31.
- (47) 家庭内試問記録簿において, 実の子供を奉公人と記載している事例については, 前掲拙稿「19世紀東中部スウェーデンの地主大農場における農民・トルパレ世帯」28 - 29, 31, 33頁。
- (48) 利用した検索システムでは, 複数の階層名が個人名の前に記載されている場合は, 最初に記載されている階層名のみが反応し, 2つめ以降の階層名は検索の対象外となる。例えば, 「トルパレ, 間借人, スタータレ」という3つの階層名が併記されている場合は, 検索では「トルパレ」のみが反応し, 間借人やスタータレと入力しても検出されない。このため表1の検索件数は, 実際の記載件数よりは少なくなっている。
- (49) 「家に属する者」については, G.Peterson, *Jordbrukets omvandling i västra Östergötland 1810 - 1890*..., s.104.
- (付記) 本稿は, 神奈川大学共同研究奨励助成金(「市場経済のグローバル化」の諸相と諸問題に関する研究)による研究成果である。